
日曜日はスコップ日和（未評価作品をスコップで掘る）

まめ太

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

日曜日はスコップ日和（未評価作品をスコップで掘る）

【Nコード】

N1110X

【作者名】

まめ太

【あらすじ】

自分がお気に入りに入れたい作品は、最初からクライマックスだったり、色々と凄い設定が最初から語られたり、主人公が明るい口調で喋っていたりするような作品……以外、です。最近気付いたのさ。グダグダのエッセイを交えて、他作品を掘り起します。

第一回スコップ

『小説家になろう』というサイトで、作品を発表し始めてそろそろ……半年は経ってないのか。何ヶ月目だったかはよく解からないが、たぶん4ヶ月目くらいだろう、うん。

ところで皆さん、ランキング作品はお肌に合いますか？（笑）わたしは合いません。

何がどう合わないのかは知りませんが、感性の違いでしょう、そういう事にしておけば幸せ。

では、本題。

ランキング合わないんで、自力で合いそうな作品を探そうとか思うんですがね、わたしだって書き手ですからして？ 他人の作品のそれも海のものとも山のものともつかないものを大量にね、読むのは苦行のレベルですよ。

ですがね、この苦行、自分の作品の為だと称してしまえば苦行でなくなるこの不思議。

けれど、なろう作品の紹介というのは、すでに先人ともいうべき方がいらっしゃるんで、二番煎じですわ。

同じ事をしたって面白くもなともない。

メジャーな作品はそちらを当たってもらうとして、わたしが掘り進めるのは「未評価作品群」です。

ポイント0の作品から、これはと思うものを探してみたいと思います。

お気に入りが増えるといいなあ。

いきなりクライマックスだったり、わあすごーいな設定説明が序盤から来る作品はすべてパスです。

てゆーか、わたしはそーゆーのがカユイのだ。徐々に引っ張って

って、盛り上がったからの畳み掛けるSUGEEなら大喜びさ。
そういう作品「だけ」紹介していききたいと思います。
趣味の合う方、ニヤリ してくださると有り難や。（笑

まず、一作目。

『海の都の少女』

書き溜めてから投下するタイプの作家さんのようで、エターじやないかとかヒヤヒヤしますが紹介。

ところどころ文章がおかしくて引つかかるのが残念なのだけど、現在三話、参考になるものがあります。エタらず続きを書いてほしいと思うところです。

女主人公、地の文で書くべきことをきちんと踏まえて書いてます。キャラもいい。

台詞部分が秀逸です、すぐ登場人物に好感持てるようになった。

三話だけなので、どう転んでゆくのかは解からない。

同作者のエトルリア叙事詩もなかなか読み応えありげ。登場国家紹介は一見の価値あり。そうとう評価も高いので、海の〴〵も読んで欲しいところ。てゆーかよ、お前等、985人とかお気に入り登録してんのに、異世界ファンタじやなきや読まねーという姿勢アリアリでくそ笑たわ。史実か？史実の二文字が引つかかったんか？

これ書いてるうちにお気に入り入ったようで現在はp t oではないです。

肝心のストーリー分類が。

史実を勉強されてるようで、時代考証とかを視野に入れて、地中海〴〵エジプト圏での冒険が期待されそうな出だしです。海洋冒険か陸地か、はたまた恋愛重視かはまだなんとも。

二作目。

『落日を別つ人へ』

こんなにすぐに良作見つかるとは僥倖。

すーっと世界に入っていけます。なんでコレがポイント付いてないのかが不思議。でも迷うね、お気に入りいれるのが勿体無い。2ch本スレで誰か言ってたけど、誰にも教えたくないとかそういう気持ちがある。行間まったく空いてなかったりするんで、人によってはとっつき辛いかも。

わたしはスルスル読めたんだけどもね。

異世界といっても作者さんのオリジナリティが溢れていて、かなり独特です。

キャラの魅力が高いので、読むのに苦痛はありません。

落日く読みたいんで、本日はここまで。

第二回スコップ

はい、わたしは実は小説を読むのが大嫌いです。（笑）
書くのは好きですけどね。

それでもまあ、必要最低限くらいはと学生時代はムリして読んだわけです。読み易い文章なら、集中して一気に読んでしまえるけれども、やっぱり文章って個人の感性ってのがあると思うんです。

プロの作品は大概読めたんですけどアマチュアは……ムリ、ダメ、ゴメン、て感じが多かった。さすがに話題に乗るほどの、宮部みゆきだとか東野圭吾だとか松本清張、横溝正史なんかはスラスラ読めるんだけどもね。堅い文体、ライトな文体は関係ないですよ、読み易いかムリゴメンかはなんかの基準がある。

論語とか、相対性理論とか、普通に読めるわけですから。
何が、分けるんだろうか……。

では本題。今日は60ページ目から掘ってみましたー。

わたくし、題名もあらすじも読まずにいきなり本文行きます。半分読んで判定。

あ、申し訳ないけど短編及び1ページだけ作品は今回触れずにパスしております。

本日一作目

『ピュアダーク』

文章的に、まごついたり奇妙になったり、ちょっと引つかかる部分が多いわけですが。

それ以上にストーリーの進め方が上手です。引つかり、引つかり、読みにくいギリギリなんだけど、話の続きが気になって読み進めてしまう。そして三話目から格段に文章が進化するので安心。

現代の、たぶんアメリカな舞台でのオカルトファンタジー。完結してるのはいい。

後でじっくり最後まで読んでみる。

……そうか、解かってきた。三人称かどうか、だ。
三人称の方がわたしは馴染むらしい。

んでは二作目

『キリシア大陸物語』

題名省略してますがまあ問題ないでしょ。昨日に続き、文章ばかり、内容申し分なし、な作品に巡り合えました。ただ、完全に内政。派手に暴れるシーンとかは今後も期待出来るかどうか怪しい、というよりそういう系統の話ではない。けど、小難しい政治駆け引きでニヨニヨ。バックボーンがしっかりしていると、書くものがこんなに違う、という感じで、自身のなんちゃって内政をちょっと恥じてしまった。

んでは、色々と更新もきてるんで本日もこれにて御免。

第三回スコップ・番外

フェザー文庫が始動、ということなので。

今回は『小説家になろうで宝石を探す』について。

まず、作者さん？ いや、この場合スカウトのじーさん、と呼ばせてもらおうか。（笑）

やっぱり何度も人生で勝負してきてるだけあって、目の付け所がいいね。

わたしは、世にいう新人賞とかのシステムはもう古臭くて、出版社も本気で生き残りを考えるなら、あんなもんを主力に据えるのはそろそろ考えた方がいい、とか思ってるクチだ。

マトモに作品読むこともできない状態でパンクしてるもんだから、アルバイトに任せて第一次選考。

アルバイト君はろくすっぽ読むことをせず、チラ見だけでポイポイと投稿作を捨てる。

キャッチコピーの才能があつて、運が良かった作品だけが通過する。

これって、なろうのランキングシステムよりも酷いんだけど、気付いてないのか？

たった一度しかフィルター通してないんだよ。

なろうのランキングは、まだ何万回と、読者の数だけ、連載期間でサイトに載ってる期間中はずっとフィルターが掛かって選別作業が延々続いてる状態なんだ。

それでもランキングに載ってくる作品には首をかしげるモノがあったりするのに、たったの一回、それもアルバイトのチラ見でほんだけの良作が振り落とされるかなんて、想像するより簡単だ。

現に、ハリーポッターの作者が諦めずに何社もの持ち込みをしなかったら、どうなった？

あの作品も、映画も、ブームも、なかったんだ。

そんなズサンなシステムに成り果てているから、だから、電撃とかアルファポリスなんかネットに出てきたんだろう。死活問題だから。他の出版社は様子見つてところだろうな、今。

電子書店パピルスだとか、どんどん、形式を変えてきてる。

このまま行けば、紙媒体の本よりもネットで探す方が良作が見つかる、なんて状況が出来上がってしまうからさ。

アルファはなろう式のフィルター掛けておいて、そこで浮いてきた作品を、今度はプロの確かな目で見て判断するわけだからさ、プロが時流を見誤らない限りはコケようがない。

精鋭の中からチョイスする権利は自分らで持つてて、あとはブームとかを見極めて売れる要素のあるモノを送り出す、巧い手だわ。パピルスはさらに上に行くかも知れん。

そこへ、本物のプロ作家たちを抱きこんで競争させてるわけだからさ。

あそこまでキツくなると、逆にわたしなんかは行きたなくなるけどな。

アメブロもそうだよな。

それらに比べると、スカウトじーさんはまだ良心的というか、あざとさが足りなくて心配になる。

他のトコがやってんのなんて、一つのツボに虫を山ほど放り込んで、生き残ったのを……で感じて、蟲毒の壺みたいな気持ち悪いビジネス臭すら漂ってるもんな。

ビジネスを前面に出せば、どうしたってそういう扱いになるから仕方ないんだろうけど。

『小説家になろうで宝石をさがす』は、ランキング合わないわたしなんぞはレビュー誌替わりに読んでいたりする。やっぱプロが金儲けを念頭に入れて読んでるだけに、基準はしっかりしてると思うわ。

真似事みたいな事を始めてみたけど、仕事として本腰入れてる人には適わんよ。

レビューしようと思って掘って見たらよく分かんと思うんだが、紹介の基準がブレてくるもの。甘くなってしまう。

そういうブレが少ない点で、宝石は評価する。

これからも良作がどんどん紹介される事を期待したいね、お気に入り増やしたいんだー。なんせわたしは小説読むのが嫌いだからさ、読める話を探すだけでも一苦労だからして。（笑）

最後に。

作家を目指す人はさ。ここはネットなんだ、という事をもっと強く意識した方がいいよ。

ネット小説の一番の強みは、いつでも簡単に改訂出来てしまえる、という事に尽きるんだから。どんどん読み込んで、どんどん書いて、どんどん過去作読み返して、どんどん身悶えて改訂作業して、どんどん書き換えてきやいいのさー。

そうすりゃいつかは最高の出来栄になるよ。（笑）

わたしなんか、思いつくネタはとりあえず何ページか書いて、メモ代わりにならうに上げてるよー。（笑）

追記：

……紹介作が消されるとか。びっくりした、なう。

（運営、仕事してたんだ……てつきり黙認の構えかと思ってたー。）

しかし、これでまたランキングがなろう小説オンリーになるよー
な予感……

番外のついで

思いがけずご本人降臨、ということで予定を変更して昨日の続きを。

フェザー文庫がアマゾンで紹介始まったことだしね。

まずはランキング。

感想にもちよろつと書いたけど、恣意的な操作をしないランキングってのは、だいたい似たような物ばかりになってしまふものだ。

食い物に変換してみれば分かり易い。

『グルメランキング、ここの料理が美味い!』というのがあったとする、読者の投票だけで選ぶとする、候補の選出も読者頼みとする。

するとだ、世の中、大筋の流行りというものがどんなジャンルにも必ず存在して、それはマジョリティというかで、大多数が基準値として持っているものだが。これが働いてしまう。

その時はたまたま、ボンゴレパスタが無意識的流行だったとする!

そしたらランキングは、○×店のボンゴレだの横浜　のボンゴレだの、とにかくボンゴレパスタで埋め尽くされる。一つ一つは多少の違いもあるだろう、しかし、料理と言ってボンゴレしか出てこないのかよ、とツツコミを入れたくなる程度にはボンゴレに埋め尽くされる。

なぜそんな事が起きるかと言えば、選出する人間があまりに多い事とボンゴレの種類があまりに多様化しているせいだ。だが、全体を見た時にはボンゴレで埋め尽くされて、もはやボンゴレランキングにしか見えない、という状況が作り出される。

ランキングを創り出す時にはそういう力学が働くわけだが、これが利用者側にマッチするかと言えば、まったくマッチなんぞしない。ビジネス的にもユーザー的にも、クソランキングの出来上がりだ。

ビジネスとして見る。

ボンゴレ食いたい人間以外は用なしなランキングである、しかも、看板に偽りあり。

ボンゴレ食いたい人間なんて、美味しい料理食いたいと言ってる人間のうちの、さて何パーセントか？

なにより、美味しい料理食いたい人間の「全てが投票したわけじゃない」のが痛い。沈黙層がいる。そして普通は、声を上げる層よりサイレント・マジョリティの方が桁違いに多い。

ユーザーとして見る。

選択の幅がまったくくない。

ボンゴレしかないんだから流行の傾向も測れない。次の流行を推測できない。

上位はボンゴレに埋められ、下位は一票二票の争いで、個人的趣向か、多くの支持があるのかが判別出来ない。

ボンゴレに埋められているから、少数得票でさえ出ている数自体が少なく、他の料理という選択肢はほとんどない。ボンゴレの中に一品二品他の料理名があるだけだ。

なにより問題なのは、ランキングが本来の機能を果たさないということだ。

ボンゴレに埋め尽くされたランキングにボンゴレ以外の料理が出たら、流行関係なく飛びぬけて美味しい料理ということだ。本来、ユーザーが求めるものはそれだったわけだ。

ボンゴレという基準値の流行をも超える美味しい料理のランキングを求めている。

「料理全般」のカテゴリーでなく、ボンゴレのみに埋まっているから、ボンゴレ以外を求める層がボンゴレ以外を熱望するというパラドックスが生まれてくる。

紹介者だけが満足するどーしよーもねークソランキングということだ。

だが、ビジネス的な力学が働く。
ランキングに乗ったボンゴレにしたら、「流行」ということをどんどん利用したい。

流行だから、なんぞという実態のない理由でボンゴレを食う人間が増えるのだ。

なぜランキングを観ようと思ったのか、最初の理由は打ち消され、いつのまにか流行のボンゴレで美味しい店はどこかな、という風に誤魔化される。

それがブームの正体。

なろうランキングはそうやって誤魔化された大衆が、流行のチーレムで巧い小説はどれかな、になっている。流行というものは、ランキングをぱつと見た瞬間、チーレムだらけだから「ああ、チーレム流行なんだな」と判断しただけで、それを自分が求めていると錯覚を起こしたに過ぎない。

追記：

ふと思った。

電話で番組内ランキングみたいなのをやる場合でも、時間制限を設けるよね。あれはなんでだろう？と思って考えてみたら、なろう

の場合は延々と演算繰り返してるわけで、それと同じ状況になるとランキングの多様性が無くなるという事だろうか。

無意識流行の母数が多い上に、名前が出てくるボンゴレ店の実力で信者数そのものがすでに母数の部分で他の料理の上を行くし、他の料理を思い出す前に実力派ボンゴレの名にかき消されるわな。

あ、なんか纏まらない。文章にならなくて申し訳ない、文章書きのくせにー。お恥ずかしいレベル。

第四回スコップ

さてお待ちかね、第四回スコップです。（誰が待ってる……）
今回は80ページ目から掘ってみましたー。なんかもう、自分の強運が怖いわっ！

いきなり80ページに連続して2作。てゆーか、普通にゴロゴロ埋まってるだろ、コレ。
なんかだんだん、そんな気がしてきたわ。

『大事なあなた』

まず、文章が秀逸。なんとゆーか、基本。ものすごく参考になるんで、作家志望なら読むべし。

内容は、シヨタ好きはGO！

ものすごくいい性格のシヨタが大好きなおねーさんの為にあれこれ。そういう話。

設定的には、ちよつと都合つばい気もするだろうが、ちゃんとそれらしい解釈を付けてあるんで、そんじょそこらのご都合設定とは違う。いわゆるひとつの天才児、とフォロー解釈を脳内補完するだけでオケ。嫌うひとは少ないとさえ思える良作。しかも完結済み。現時点お気に入り8pt、あれ？ さっきまでは0だった……は？（未評価で掘ってるからお気に入りにはあつたりするのか、なる、気をつけよう）

『ナイトキングの国』

まずなにより、……キーワードなし。うう、これは迷う、紹介していいものかどうか。

調べてみて、検索除外処置はされてないんで大丈夫だろうと……

思えばわたしも最初はキーワード完全無視だったもんなー、なんて思いつつ紹介。

文章は時々、表現とゆーか諷的な勘違いで「ん？」とか思う程度の引っかけはあるけども、問題なくスムーズに読めます。

ストーリーの方は、途中でもどかしくなっただの文読み飛ばしたくなるくらい面白い。続きが気になって、チェックしなきゃなのに普通の感じで読んでしまった。

どーしても引っかけたる点として、ファンタジー世界に「電話」なる文字が出てきてしまいますが……そんなくらは目を瞑ってくれ！ ワンピースにも出てたじゃないか！

と、いうわけで本日も2作掘り出して終了ー！。

第五回ス Copp

はい、第五回ス Copp、ス Copp。

本日は200ページ目から掘り下げてきた。

何作か読んでいて、気になったというか、切った基準のひとつを書いておこう。

設定の矛盾だ。

例えば、それまで離れ離れに住んでいた家族と暮らすことになった、それはいい。でも、対象者がとくに成人済ませたい大人の場合、それも男性の場合はそのまま独立して、時々遊びに来るよ、と誤魔化す場面だろ？

それがリアリティというもので、そこをご都合で一緒に暮らしてしまう設定の作品は悪いが切らせてもらったよ、今回。

都度の場面、一般的にはどうなるか？を常に頭に入れて書くことが出来てない作者さんに、今回はけっこう当たったような気がする。（て、今までがスムーズに掘削出来ただけかなー）

少し考えれば分かるようなご都合矛盾ってのは、さすがに紹介作にするわけにいかない。前に紹介した電話とは違うんだよ、展開上、電話が必要になったが電話を回避すると相当の技量が要求される、それがムリだったんだらうと分かるからね。たかが小道具一つのコトだから目を瞑ってくれ、とお願いした。

ちょっとズレた思考を持った人が主人公の場合は、その行動がズレてるが故に周囲は普通通りの展開にはならないはずなんだよ、で、周囲もズレてるならさらに普通とは違う、それ相応の展開にならないと。それが構成というか、計算。

主人公の一挙手一投足、一つの台詞で、次にどう返ってくるか、その計算をする。池に石を投げたら、波紋が広がり、どこで跳ね返

って波紋同士がどこで重なり合うのか……それが『小説を書く』ということ。投げる石が多かったり、特殊ならば、その分だけ計算は複雑になる。

それが、本来のSFは難しいということだったり、歴史や戦記は大変だったりすること。特殊な形状という要素を計算式に入れなくちゃいけないから。

んで、3回、3回番外でも云ったけども、「なろう」では受けない種類を掘り出してるわけですが、わりと掘ればゴロゴロ出てくる状態なわけだ。ゼロポイント地層には沢山埋まっている。

たぶん、なろう作品を読みに来る時点で、読者の方でも小学生向け漫画とか、そんなんを読む心積もりしか持っていないだろう。

ゲームをお薦めした時に、知人が言ってた言葉だが、「^{ゲーム}娯楽でまで、頭使いたくない。」と、そういう意味なんだと思う。で、なろうはチーレムトリップの本棚だ、と。

良い話を書けば、ロコミで上に上がるのかとか考えたけど、なろうの読者が押し上げたわけではないようだ。アルカディアとか、そっち方面で噂になって、普段離れてる層とか、評価もお気に入りも付けない層が目止めて、ポイント入って上がるんだろう。

で、上がってきたら、初めて、普段テンプレしか読まない層が読んで、さらに底上げ……は、しないな、連中は層がまるで違うから読んでも理解出来ない。面白いと感じないだろう。半数以上は読むことが出来なくてバツク、半数は気に入って評価、というところかな。

以前、会社の先輩が、小説を読み始めようと思うから、面白いの貸して、と言ってきた事があった。

「新井素子」を貸してあげた。簡単だろ？ 初心者にはうってつけの分かり易さだろ？ 自信满满で、小説好きが一人増えたな、とか、次は何を貸してあげようかな、とか思っておった。マヌケにも

……「ごめ〜ん、難しくて、わかんなかった。」だってよ。
それ以来、わたしは全員が全員、小説読めるもんだなんて幻想は抱いていない。

人の読解力には差異があるわけでさ、文章の難解さでギブする人だけでなく、内容の複雑さでもギブしちまうってことさ。「まどかマギカ」は傑作と思うが、なろう読者に受けは悪かる？ 理解出来んということだ。「シユタインズ・ゲート」もな。

理解は出来るんだろが、はなからそれを求めてなろうには来ていない、という事かな？

よく解からないねー。

だから、逆にいうなら、中途半端に点数入っている作品よりも、いつそゼロポイントが宝の山だったりする。だから、作者さんたちも、お気に入り数がどーのこーのでは、悩む必要まるでなしっ！（笑

てなわけで、本日のスコップ成果。

『八百万のクチ』

面白い！ あ、いや、まずは文章の方を。

現代文学やりたい作家さんはぜひ参考までに読んでください、て感じのクオリティ。

テンポもいいし、誤字もほとんど見当たらない（一箇所しか見つけてない）、引っかかるよーな言い回しの妙な部分だとか、文章のちぐはぐもない。

そして内容、まだ2ページしか書かれてないけど、そうとう面白い。

2ページ、相当量で文字がぎっちり詰まってるけど、主人公がど

んなけダメ男かっていう説明と、「カウンセラーになってください、
」と言われるまでで費やしているので、進行は少々遅めか。（いや、
一般的な小説ってこんなテンポだから、ライトノベルとして読むな
よ、という感じ）

で、このダメダメ男がどう変化してくのか、という期待をすごく
抱かせてくれる。人によつては、そのダメっぷりが我が身のこと
でブラウザバックするかも知れんけど。そんなくらいダメさがリアル。
「つづき、まだー？」ワケテカ。

『マジメかつ！——笑道わらいのみち——』

文章は文句無く、読ませる。背景描写のうち、どういう建物があ
りどういう概観で、とかいう部分があり書かれていないけど、こ
の話の場合は不要なので、わざとなのかうっかりなのかの判別は付
かない。

けど、巧いなー。背景はしよつつ読ませる文章、という事で一
見の価値あり。

そして内容、話の進め方もテンポも引きもいい。今のところはオ
ーディションを受けてきたよ、という部分で終わってるけど、割と
長いはずなのにするすると読めてしまった。

ただ、内容は人を選ぶ。かなり資料を当たっているか、業界に繋
がりのある人かも知れないので、ソッチ系統に興味のある人は面白
いだろうと思う。

専門知識あれば武器になる、の良いい見本なので作家希望の方は勉
強になる。

わたしは理想主義者ではないのでね。人間を良いものとも思わないし、全ての人が平等に同じ程度に頭が良いとも思っていない。小説を書くと思うことが、才能の発露だとも、もちろん、思っていない。

第六回スコップ・また番外

今回は、なろう作品の紹介はなしです。

商業作品、それも大御所出したので並べるのはちょっと。(汗

森村誠一著、「黒いファントム」を今さらで読み始めました。

家にあつたのになんとなく敬遠していたんだけど、軍関係の話を考えているので、参考になるかと思って読み始めて。はつきり言って、偏頭痛との闘いのが激しくて内容はイマイチ入ってません。

ちよつと集中するとズッキンズッキン、地獄だ、地獄っ！ だが負けん！！

(病院へ行けとな？ 病院は痛いし怖いから嫌だ。放つときや治るからいいんだよ。)

で、自衛隊を扱ってるんだけど……もによもによする。

今でこそ、震災関係とかでどれだけ彼らが人間味に満ちた、本当に普通の人であるかは森村氏ほどの作家ともなれば分かることだと思っただけど、当時はやっぱり風当たりが強かったわけさ。

わたしは、実際、『性悪説』に近い立場を取って物事を見ているんで、世の中に善人と悪人が居るとかいう考え方は嫌いなんだよね。すべからく、人は『愚か』なだけであって、その程度に差があるだけだと思っているから。

だから、軍人が型に嵌ってとんでもない事をやらかす、作品中に表わされるメカニズムについても、疑問符だらけでモニヨモニヨしっ放しだ。

政治家でも官僚でも富豪でも幕僚でも、完全に利己的で自分のこ

としか考えてないような人間は、そもそもそんな地位には付けられないと思うんだ。

政治家のタイムテーブルを、何かの番組で知ったけど、あれだけハードなスケジュールを、私利私欲の為だけにこなせるなんて思わないよ。

官僚にしたって、大富豪にしたって、その地位にはそれに見合うだけのハードでクソ重たい責務というものが必ず付いて回るだろうし、欲や金にはそれに耐えうるだけの魅力はさすがにないと思うんだ。

信念を支えるものは、理想であろうし、使命であろうし、だからこそ、とんでもない間違いだって起こしてしまうのだと思うんだ。核弾頭のボタンを押すガッツを見せる、だとかいうね。（これは「パイナップルアーミー」ネタ）
愚かだから、としか言いようがない決断だ。

宗教は、人間を生物層の中でもっとも優れた存在に位置付けている。

でもさ、普通、自分を賢いと思っている者ほど馬鹿だよね。

人間というのは、この地球上のすべての生物の中で、もっとも出来が悪いんだろうと思うんだ。

神様は人間を愛している。

それは、あまりにも愚かで、馬鹿で、どうしようもない生命に対して、哀れんでの愛だと思う。

自分を「良い物」と思うことほど、哀れみを誘う行為はないと感じるよ。滑稽だ。

自分を知らないものは、夢を見る。

愚かな夢だ。

愚か者は愚かなりに、同じく愚かな同胞達に、涙を流せばいいんだよ。

優しい想いで見守れるように、神様と同じ視点に立てるように。

さて、久しぶりに「なろう」じゃない小説を読んだわけだけでもわたしは最近、思い悩んでいることがあるんだ。

『難しい内容を、平たく簡単な文章を用いて、誰にでも分かるように書きたい』

それを目指して書いてきたのだけど、どうやらそれは理想論で、実現は不可能な類なのではないか、と思い始めているんだ。

ロジックがある。

小説を読むには、読解力という力が必要だけど、それは個人差がとても大きい。

難しい内容といっても、その内容自体を理解するにも個人差があるという事に気付いてしまった。

どんなに難しい内容でも、言葉を尽くせば誰にでも理解は可能だと、そうであるなら、仏教の大乗仏教と小乗仏教の区別は付けられないわけだよ。

多くの宗教が、入門編と深く勉強した後に教える真の経典とに分けはしないんだよ。

簡単な物語しか読めない人に、難解な物語をいくら簡単な言葉を使っても説明しても分かることはない。

そして、簡単な文章を使うと、難解な物語を普通に理解出来る者にとっては、冗長に過ぎて、幼稚に過ぎて、有り難味がなくなってしまうんだ。

小説を投稿する際に、もっとも大切なのは、読者層をしっかりと見極めることだ、と一番最初に読んだ市販の指南書には書かれていた。

「そんな事はない、」と反発していたが、どうやら、わたしなどが考えるよりも遥か以前から、そういう試みは行われて、その結果、

『読者を選ぶ』という悲しい結果が確定で現れたのだろう。すべての読者に読める小説などは、書けない。

棲み分けというものは、生物層と同じに、小説界にも厳然と存在するんだね。

だから、もう、簡単な文章で分かり易く書くということは止めた。付いてきてくれる読者だけに向けて書く。

Webのいいところは、置いておきさえすれば、目に止まるという事だよ。縁さえあれば。

昔、ファンだと言ってくれた人が、同人の即売会でこう言った。

「やっと見つけました、シーラカンスを探すくらいに大変でしたよ！」

これはこれで、誉れだと思っているからね。縁があるなら、出逢うだろう。

縁のあった人だけ、読んでくれればいい。

シーラカンスは、深海の底へ沈んでゆったりと泳いでいようと思う。

出逢う価値のある作品を書けるように努力する。

(P S : 頭痛に敗北、病院でお薬もらってきました……)

第七回スコップ

六回の時に、簡単な文章で小説書くのは止める、と宣言したけども、だからと言って難解な文章を書くとかいうわけじゃないよ。

必要以上に平坦にしたり、文章を明るくテンポアップしたり、行間を空けてみたり、軽いノリで読める空気にしたり、スカッと爽快感を出すように勤めたり、流行りの素材を無理に扱ったり、……そういう努力を放棄する、と言ってるだけだから。

要するに、読者に合わせて書くのを止める、と言っただけね。

それは自分を殺して書くということだからさ。

今まですごく迷っていたんでね。

ランキングに乗りたいたいと思うのと、お気に入り読者が増えて欲しいと思うのと、六回で言っただけのように書きたいものをどう書くか、という事は繋がる。

「なるう」や「Web小説」の主流読者層に合わない作風の作家さんは、もう諦めた方がいいよ。（苦笑）

ネット読者なんて、小説読む層の何%ほども居ないんだからさ。

ここの読者に受けないという事が、作家としての価値、作品に対する価値だとは思いなさんな。ほんの数%には合わなかったというだけのことだから。

住むべき場所が違うんだろうね！。

ネットを普通に利用する、普通の人は、忙しいんだから噂になつて初めて読みに来る。

その証拠に、なるうの作家さんだって、多くの人は「書き専」でお気に入りなんて付けてない人が多いじゃないか。沈黙のマジョリティという層がある、なるうだったなら数万単位で。

彼らは小説を読まないわけじゃない、「なるう小説」を読まない

ただだろう？

わたしも、ランキングや更新欄の題名を目に入れないようにしただけで、かなり作風が安定したよ。

どうも今まで、思うように書けなくてイライラしてたんだが、知らず知らずで引き摺られていたらしいね。自分のカラーは社会派とかハードボイルド系だから、なろうとは真逆だし、顕著だったんだと思う。

他の、特になろう主流の題名やあらすじを目に入れなくなっただけで、かつての文章に近付けている。

こればかりは、『好み』としか言いようがないわけで、六回でも言った『棲み分け』によるところなんだから、わたしが場違いなんだよね。（苦笑）

まあ、ここのエディタがとっても使いやすくて居座ってるだけなんだ。

いずれ家庭の事情が解決して、ホームページを再開出来るようになるまでの辛抱だわ。（笑）

とか言いつつ、思いの外居心地がいいもんで、そのまま居座る予感もひしひしだけど。

事情は異なるにせよ、わたしと同種の匂いがする作家さんを、これからもボチボチ掘り起こしていきたいとは思っておりますんで、よろしく。

さて、作品介绍。

『きつと、それすらも』

読み出した時に、不思議な感覚にまず引き込まれた。

この作品、実はoptじゃないです。（苦笑）

未評価ではあるけれど、お気に入りには付いていた模様。見てる人

は見てるんだね、と。

なるうでは珍しい感じの作品なので、ぜひに、と思って紹介。

文章もこれといって問題点なし。ストーリーも文句なし。

一人称をこれほど効果的に使えるというのは、見習いたいものだわ。

なんともジワジワとクル感じで、得体の知れない物語。なのにはのぼのパートがあって、とにかく妙な雰囲気作品。

今回はちょっと歴史ヒストリア観てて時間無くなったんでこれにて終了。

第八回スコップ

2chのある発言について。

触れるな、とスレでは言われる人なんだけどもね。

お題スレが馴れ合いで、評価点を入れるな、という主張も解らなくはないんだ。

誰ともツルんでない作家さんとスタートラインが違ってしまうのが不公平だ、という主張は確かに間違いじゃないね。けども、スタートラインが公平であるべきとか思ってるのは間違いだよ。

いや、理想論で実現は不可能だ。遂行した人が馬鹿を見るだけのことだ。悲しいけどね。

例えば、アルカディアとか自サイトとか紹介サイトでの宣伝とか、CM効果というのはネットじゃ馬鹿にならないからさ。それ以上に強力なある種の効果は確かにある。

アルカディアとか自サイトとかは、立派に自助努力って奴だろう。それと同じで責められる謂れはないね。

2chに晒すことが宣伝になるってのは、解ってることだし、スレにも効果的方法の一つとして、「余所で宣伝する」と書かれているじゃないか。

ただ、2ch晒しは、批評がセットで付いてきますよ、という事で改訂する意志があることが前提条件だから、晒しておきながら何一つ変えないというヤロウはその後にはボロクソに叩かれても文句言わない。

同様に、お題スレは評価厳しいし、ptだって付かない事の方が多いくらいだよ。

あくまで、「読んでもらえる機会が増える」というだけだからな。お題に沿って作品が書けるなら、書いて持ってくればいいのに、と思うよ。

読んでもらいたいと思うなら、どんな機会も進んで掴みに行くべきだよ。アルカディアにも晒して、自サイトやM i x i も利用して、あらゆる手を尽くせばいい。

M i x i にもかなり大きなコミュニティがあるから、利用しない手はないよ。

宣伝しないと、「なろう」だけで勝負したって、まず読んでなど貰えない。

不公平なのは、人の目に止まる機会の不均衡ってヤツだ。

文句言っただって直りやしないんだから、それより本気で読んでほしいと思っただけなら、せっせと宣伝した方がなんぼか前向きだ。

読んでほしい、仲間がほしい、と思うのなら。その上にお題で作品作れるなら、うってつけの場所があるから、お題スレにおいで、と言ってる。

あ、ランキングに乗るほどのブースト効果はないからな、先に言うておく。(笑)

中には、そういう不正ルールがある真の馴れ合いグループもあるよ。うだが、お題スレは違うから。

等しく批評はする、p t は良作なら付く、書きなれた作者が多いから、ハズレ作品は少ない。

まあ、弊害があるとするなら、ハズレが少ないって点か。

スレに晒された作品読むだけで満足しちゃえるんだよね、最近。掘り出すのも大変だし、ランキング作はなからストライクゾーンを大きく外したボークばかりだし。

お題スレは自分好みの作者が集まって、いわば、似た者同士の集団になってるから、仕方ないね。

自分の居やすい棲家をまず探せ。(笑)

ランキング作品に合わないんなら、仕方ないことだ。馴れ合いは。

大企業の中でも、部門部門で全部違うもんだろう、それと同じ。なろうというサイトに集まる中でもいろんな派閥があつていい。むしろ、派閥が明確に表れないと困る。

200文字の集団とか、他のお題集団とか、2chお題スレ集団、今のところ明確に表れてるのはこの3つくらいだが、もっと細分化した方が利用者には便利になるんだよ。

「なろう」の解体だ。

それぞれが自分の好みの集団をチェックするだけで良くなる、余計なモンを読まされる無駄は省かれるべきだろう？ 図書館だって傾向別にジャンル分けてのはなされてるんだ、本来、ジャンル別ランキングがその役割を果たすはずだったけど、それをぶち壊されてんだから、代わるシステムが必然で表れただけなんだ。

いや、ジャンルの違いでもなくって、作風の違いつてヤツか。

ライトノベルと、文学系、200文字は超ショートになるのか？

軽く読みたい人にはいいだろうね。

厳選集とか出してくれんかな、とかは常々思うが。（そのうちお勧め200とかでやろうかな）

設定の矛盾やら地の文が疎かだともう読めない、という人向きの作品と、すっきり爽快感があるなら、細かいところは別に気にしない、という人向きの作品は違うし、そういう人等が集団化してくのも仕方ないということだ。ランキングが片方に寄ってしまってるんだから。

主流派の、すっきり爽快感で細かいことは無視派には、今のなろうは便利だろう。それ以外の派閥が自分らに便利ないように分離し始めただけのことだよ。

本スレの晒しまとめWikiだとか、ね。別に問題はないさ、なろうのランキングはこれまで以上にすっきり爽快派ばかりになるだろうが、正しく棲み分けが成されるだろうよ。

んでは、今週見つけたO p t作品。

『ユグドラシステム』

ほとんど空行がない、ということです。いぶん損をしているなあという作品。

能力による戦闘シーンが、なんちゃって戦闘と違って、かなり迫力あるよ、うん。

ストーリーも気を引くものだし、引きが上手いなー、と感心しながら一気に読了。

完結済みなんで、読んでみてほしい。

今回から題名変えましたー。なかなか発掘作業に掛かれなくなっただんで。

またまた番外

なんだかもー、グダグダエッセイが主成分つつつても差し支えない感じの体たらく。orz

「作品には、その人の内面が表れる」

マークしてる作者さんトコで紹介されてた言葉だけでも、その通りだよなと思う。

ただし、ちよつとフクザツな部分もあるんで一概に、表面だけで分類すんのは危険だ。

わたしは以前、『SM小説』にド嵌りしていた。

今でもソレ系は得意だよ。いかにいたぶり尽くすか。非常に残酷な面があるんでね。報復というのは、わたしのもっとも好物とするテーマだからさ。

まあ、その流れでSM物を読み始めたら、これが実に奥が深い、面白い。

片っ端から読みまくった。主にネットのオリジナル系SMとか、ね。そしたら、2種類がある事に気づいたんだ。

愛のあるSMと、ただの残酷SM。

本来のSMってのは、お互いの信頼関係で成り立つものなわけだよ、だから、S様ってのは非常に気配りが出来て相手に対する奉仕の精神を持ち合わせてないと務まらない。頭が相当に良くないと良いご主人様とは認めてもらえないんだよ。

逆に思いがちけどもね。(笑)

だけど、もう一つの残酷SMってのは、これはSMと分類するのもおこがましい作品だ。

一方的に相手をいたぶるだけ。中には、被害者が狂っていく様を懇

切丁寧に描写した作品まであった。

で、その根底に流れている作者の意図に、怒りとか憤りとかは「無い」んだ。そういう残酷な仕打ちをされる事への憤りとかがテーマなわけではないんだね。

ただ、ただ、酔いしれ、不幸になってゆく過程を楽しんでいた。

吐き気がするほど読後感の悪い作品の一つだったよ。眠ろうとしても、怒りで眠れないんだ。

そのうちに、どうしてああいう作品を書いたのか？という方向へ興味に移った。

精神病系のウンチクをふと思いついたんだけど。

過去に、イジメや虐待などのトラウマを抱えてしまった人の中には、繰り返し衝動というか、同じ状況を何度も繰り返すことによって、そのトラウマを解決しようとする心の働きがあるらしい、という話。もしかして、それなのかも知れない、そう思った。

サイコパス系統に行ってしまうと、途端に始末に負えないくらいに複雑怪奇で、専門家ですら慎重になる分野なもんだから、それ以上追及するのは止めたんだけど。

自身の抱えているトラウマに対するリハビリとして書いている、という場合があるから一概に、そういう作品が全て下種とはいき切れないな、という結論に達した。

まあ、冷静に分析すりゃ、当たり前の話なワケだが。（苦笑）

前のページで、「居場所を作れ」と言ったよね？

馴れ合いでグダグダ出来る場所を一つ、確保しておいた方がいいよ、という意味だ。

孤独に創作活動した方が効率はいいよ、確かに。

けど、なるうでは精神をヤラれる。

ランキングとかポイントとかが原因で、だんだんと追いつめられていってしまうから、孤独になるな、と言ってる。これが個人のサイ

トで周囲の見えない状況で、訪問者カウンターの数くらいの話なら問題ないだろうけど、なろうみたいなトコでポイントポイントって思ってたなら、頭がおかしくなるよ。

だから、異常なほどに盗作率が高いんだ。

書いてる側に、道徳心が薄い小中学生が多いのか？とか思ったりもしたが、そうじゃない。

麻痺してるんだろうよ、「赤信号みんなで渡れば」の精神だ。

人間なんて弱いもんだ、愚かなもんだ、見たいものだけを見ようとする生き物だ。

「みんなやってる、大したことじゃない、」そう思い始めてしまうんだ。

でも、盗作で恐ろしいのは、「やればやるほど、個性が無くなる」ということなんだ。

わたしは、二次創作を推奨してる。

けど、それは主人公を挿げ替えて、ストーリーの上書きをする事じゃない、そんな無駄を勧めたつもりはない。舞台を借りて、登場人物を借りて、違うストーリーを書いてみれば、深い設定を使う難しさや人物を動かす難しさが学べる、という意味で勧めたんだ。

メアリー・スーなど出して、何が上達するというんだ。

その作者の、盗作へのハードルが下がっていくだけのことだろうが。しまいに、自分では世界観も人物も作れない、借り物でしか作品が作れない作家になるだけだ。

盗作というのはそういう事だ、ストーリーが作れない、人物が作れない、世界観が作れない、どんどん、思考が硬化していつて、創作の仕方を忘れていく事だ。

上手くなるのは文章だけだよ。それでプロになれるなら、誰も苦労はしないだろうさ。

なろうつでは類似作品が雨後の筍のようにポコポコと湧き出てくる。それらの作家のうち何人かは盗作に走って、自ら才能を潰すだろう。他人のアイデアをパクることは、違法にはならない。だけど、それをすれば、自分でアイデアを生み出す方法を忘れてしまふようになるぞ。

他人のパクリでしか創作が出来ない。

その惨めさは、後々取り返しがつかなくなってから感じるだろう。

そのくらいの事は、誰でも解る理屈だ。だから、盗作者というのは「阿呆」なんだ。

なろうつで人気を取りたい、ポイントを取りたい、そんな事にかまけているうちに、そういう阿呆な思考にいつのまにかなってしまいうから、気をつける、と言ってる。

その作者の内面がどうこうという事もあるが、なろうつにはそういう魔物が棲んでいるよ。

あ、最後に。

わたしは、エッセイとか感想返しとかの文章ではその人を判断しませ〜ん。(笑)

あれは幾らでも誤魔化しが効くからな。騙されるもんか。

追記：

忘れていた。

今の世の中、アイデアなんて枯渇していて新しいものを出すなんて無理だ。

だから、他者のアイデアに捻りを加えて、新しいものに見せかけて出すんだ、その技術が、出版業界で求められる「斬新さ」だ。

流行りだからって、二番煎じ三番煎じ、あげくはパクリしか出来ないような奴、ビジネス的に見て美味しいわけがないだろうが。作家が多くの作品を読めつてのは、化学反応を起こさせるための素材を多くストックしとけ、って意味だ。他者のアイデアをパクッて、そのまんま使うなんて、無能の証だ。

ワタクシ事で申し訳なし

ちよつと引つかかる事があつたんで、古本屋で確認。

まずは有名どころの一般書籍系の作家さん。遠藤周作とか宮部みゆきとかとにかく目に付いた有名作家の本をランダムに2〜30冊、冒頭部分5ページから10ページを読んでみた。

続いてラノベコーナーに移り、こっちはどれが有名とか人気作家とかまったく知らないんで、端から順番に棚2段分を同じく冒頭5〜10ページ。

うん。なるほど。解りました。

結論だけ言おう。

『情景描写なんて要らない』

元々の書き方に戻すよ。

たぶんね、200冊は調べてきたと思うんだが、情景描写が2行以上書かれた作品は2冊しかなかった。

つまり、その場所がどんな場所だの、その部屋がどんな部屋だのの描写ね。

・・・ないんだよ。

森村誠一を読んでいて、おかしいな、と思ったのがきっかけ。

山村の廃れかけた村が舞台なんだが、その描写ってのはほとんどない。

ハツタリかますための仕掛けで最初にF戦闘機のスペックがちょろっと書かれた程度。

言葉のマジックか。

「南アルプス」「廃れかけた山村」「最新鋭戦闘機」「黒い機体」そんな断片的な名詞だけでも、想像は出来る。逆に言うなら、想像を導くキーワードさえ提示していれば、地の文での詳しい情景説明なんて要らないってことだ。

最初の文章で合ってたんだ、不要な部分を削ぎ落して、なおかつ簡単な文章のみで構成した、内容の濃い小説。最初に目指した地点で間違ってたんだ！

情景描写は不要、ただし、仕掛けとしての活用法は存在する。

著名作家の作品に出ていた。わざと情景描写をして、ただならぬ雰囲気醸し出すトリック。

これは、わたしも『電気豚の餌』で使った手だ、そういう場合でもなければ、情景を描写するための情景描写など不要。

設定説明の為の説明文が不要というのがとまったく同じだ。

『エルフと水辺の花』では、情景描写のためだけに書くつてのもなんか勿体無いから、間を取るためにも使ったりしてたが、あれはやっちゃいけない事だったか。

ああ、もう、悪い見本ということであのまま仕上げちまうしかないか・・・orz

(どーりでアクセスも評価も一番低い・・・)

悪い見本なんで、よかつたら読んでみて。

どう悪いかというと、「くどい！」の一言に尽きるんで、その点に

注目して。

まだ書きかけだけどね。第二章からは書き方を戻すんで、その違いもついでに。

ま、まあ、今まで情景描写なんぞほとんど無視してきたわけだし、練習と思えば無駄には・・orz

情景描写は要らない、と言い切ると「違う」と反発する人も居るだろう、無論。

だが、わたしが要らないとする情景描写は、「塊になった文章」だ。これもエルフを参照してもらえば一目瞭然。中には、詩的なその塊が好きだと思ってくれる人もいるだろう、せめてそういう風に邪魔にならないようにと心を砕いて書いたからね。「詩のように」受け止められるように計算して書いた。

だから、エルフを書くのにものすごく時間がかかっている。地の文の単語一つでも推敲してるから。

幸い、エルフはそういう詩的表現でも違和感ない内容だからいいものの、これを他の作品で使うのはまず無理だと思っている。

そしてもう一つ思ったのが、ラノベの読者層ってホントは「カイジ」とか、ああいうハラハラドキドキでラストにうわー！と感動するのが、やっぱり好きだろうな、という事。

ただ、その反面にハラハラドキドキはすっ飛ばしたい心理もあるんだろう、と。

たぶん、ラノベの読者層はそのままチームバチスタとかのドラマとかも観てるんだろうな、と思う。

今なら大河ドラマ『江』とかさ。

あれが解るなら、なろうチーレム以外だって読むはずだ、面白いなら。

チームバチスタや江に並ぶほど面白いなら、という事なんだろう。
たぶん。

ハードル高すぎ。orz

読者の目が肥えている、ということだ。素人のハッタリのみで書かれた本格派小説など、見抜かれてしまうということ。読者も頭が良くなってるということ。

テンプレ小説というのは、つまり、お笑い芸人のネタのようなもの。何度か同じネタを聞いてもお約束が通じる間は笑ってもらえる。

その代り、「そのネタ古い」という日がいつか来るといことなんだろうな。

第九回スコップ

みなさま、生卵事変ですよ、生卵事変。

作品自体は読んだことはござんせんけどもね。

あの作者さん、今、そうとう悩んでるんだろっねー。

色々言ってる人が問題にしているのは、実は生卵であって生卵ではない、という事が解っていれば、あんな風にもつれることはなかったんだろっねーとは思いますな。

要するに、下調べというか、あの作者さんの場合は確認が足りなかった。

ご本人は養鶏に関わる環境に居たそうだし、ほんと、確認するべきだったとか、ちょっと考えるべきだった、とか。

現在と、舞台となってる中世ヨーロッパでは取り巻く環境が違う、ということ。

読みに行ったわけじゃないんで詳しい部分は知らんけど、生卵をお奨めした？ かなんかで、サルモネラ菌とか感染したらどーすんだ、とかそういうクレームが来たという話らしい。(？)

作者さんにしたら、現代の養鶏の常識で考えて、サルモネラ感染なんてよほどでないという知識がなまじあるから、迂闊だったというだけなんだろっけどねえ。

なまじ内幕を知ってるというところに、落とし穴があったわけだ。

現代なら生卵は洗浄殺菌されて市場に出るわけですな、親鶏には抗生物質まで与えて、衛生管理徹底した工場で選別包装して、それはもう厳重な管理体制で送り出す。

親鶏がサルモネラ感染して、初めて、卵に感染するわけだからさ。中世ではそれが無い、せいぜい庭で放し飼い、野犬やキツネに盗られたり、保存技術ないから街では御馳走、田舎じゃ常食、なんせ卵

は壊れ物だし？

しかし主人公が現代知識を持つてるなら、上記のことは織り込み済みでなければその設定を出す意味がない。つまり、転生なりトリップなりの設定があるなら、上記の差は含んで書かねばならないわけだし。

鶏って、臭いんだよね、あれを街中で飼うというのは、アジアじゃ有りでもヨーロッパはどうだろう？

そこらは調べないと解らない部分だけど、誤魔化して触れないように書けば済む部分でもある、と。

田舎の風物詩的なものだから、田舎なら放し飼いで普通に描けるんだけどねえ。

でだ、衛生に対する民衆の意識というのが、また現代と中世では大きく違う。食中毒に対して、ここまで過敏じゃなかったのは確か。そんで、感染源の特定技術がないのも。

だけど、それも現代から来た人間には込み込みなわけだよ、それを書かねばなくなる。

一言、「どんなモノも生で食べる場合は衛生面で気を遣わなくちゃねー」とでも書いておけば良かった。

それが主題じゃないんだったら、それで済んだ話。食中毒がストーリー展開に直接関わるんでないなら、細事だから、問題にする方がオカシイわけだ。

問題にしてた方々は、そういう、小説としては心を砕いておかないやいけない部分が無視されてる事を、問題にしていたんじゃないかなあ。生卵ではなくてね。そう思うねえ。

現代からのスリップ主人公というのは、万事で、そういう制約がかかる。異世界と現代の差、という事を常に計算しながら書かなきゃいけないかったり、ね。

まあ、そういう事。

んでは、本で紹介するのは、
『騎士道衰えず』

坂田火魯志さんの書かれた作品です。某所ではまあ色々な評価ですけども。

ほんとに、これこそ、文章さえどうにかなれば大化けする、という作品だと思うんだ。

ただ、読み方をちょっと工夫すると普通に読めてしまったりするんで、この作者さんは独特のイントネーションだとか言い回しが極まってるってのを、本人で気付いてねーんじゃないだろうか？という危惧があったりする。（苦笑）

でないと、あんだだけ沢山書いてりやそのうち直りそうなもんだもの。なんだか普通に金曜ロードショーとかの洋画で観るような場面が浮かんできたりする。

文章に癖がある作品でも気にせず読めるといふ人は一度読んでみてほしい。

あ、騎士とあるけど舞台は第二次大戦。

第十回スコップ

とあるエッセイに感想を送りまして。

その返信をそのまま引用として引かせてもらって、話を始めたいと思います。

▼一言

カゲロウも恋空も読んだことはないですが、『フライパンの上のバターが滑るように』という比喻は面白いなと思いますよ。どこぞで見た文章、どこぞで見た内容のオンパレードで個性を出しているつもりになっている作品よりは。

芸能界で活躍している「個性が突出している、だからこそその表現だな」と思います。

漫画の喻えも出てましたが、絵柄の巧さは問題じゃなくて、例えばボーボボなんか、どう考えたって下手糞ですけども、大人気でした。作品の評価において、技術など最後のものだと思うのですよ。それよりは個性。カリスマと言ってしまうといいと思います。

歌の上手い人のすべてがアイドルになれるわけではないのと一緒に、小説書くのが巧い人のすべてが作家になれるわけではない、と思いますよ。

なにか、光るものがあつての、大賞受賞だと思います。

うな 「2011年 11月 10日 (木) 23時 4
3分 47秒」

感想ありがとうございます。

そういう考えも、もちろんありだと思います。技術が最後というのも私自身常々感じています。

ですが、感想を見させてもらううちに「おや？」と思う点がいくつかありましたので、この場で指摘させていただきます。

まず、比較の対象に挙がっているのがギャグマンガであるということ。ギャグマンガに必要とされる作画とストーリーマンガに必要とされる作画は異なると思いますので、単純に比較はできないのではないのでしょうか。

次に、歌手ではなくアイドルが用いられていること。これは私の私見ですがアイドルは歌唱力よりもルックスが重視される傾向にあると思います。ですので、歌謡力の有り無しとアイドルになれるか否かはあまり因果関係がないのでは、と思いました。

批判っぽくなって申し訳ありません。

比喻の問題に関しては、K A G E R O Uを読まれてからまた改めてお話して欲しく思います。

対立する意見はとても重要だと思っているので、何か思うところがあればご意見よろしく願います。

(原文ママ)

とまあ、こういう風にやり取りがあつて。

思うところがありましたね、この筆者さんはキチツとした方だなと思つたのはもちろんとして、自分がなあなあで文章を読んだり、自身で書く時にも適当に言葉を選んでいるという事に気付いたわけで

ね。

指摘されてる部分を読めばわかるけども、比較対象がズレてるわけ
で。

わたしはそれを、この程度なら伝わるだろう、と甘く考えて、適当
に選んでいたわけだ、必要部分を抽出してくれればいい、と。

なんとゆーか、言葉を選ぶ基準一つからでも、既に個性というのは
発揮されている、と今さうだけど発見した気分。

句読点の打ち方一つに個性が顕われるわけですよ、これが画一、ぜ
んぶ同じではマニュアルに従って模写するのと何も変わらない。

雨が降っていると描写するにも、どう表現するか、比喻を使うか否
かだけでなく、どんな比喻を使うかも個性になる。多少のズレでも
読み手が補足して伝わるレベルならOKで、これの許容範囲は個人
で変わる。

個人個人、揺るぎというか、許容範囲が違うから、万民に受ける話
を書くのは不可能なのであり、個性は揺るぎから生まれる。

どこまで許せるか、というのは書く側も読む側もであり、普段「な
ろう小説」と小馬鹿にしている、構成も文章もへったくれもない作
品でも、これも一つの個性なんだよね。

この筆者の方からみれば、わたしの書く作品も「なろう小説」と五
十歩百歩に見えているかも知れない。

プロの書く文章には遠く及ばないことをわたしは知っている。

小説、と一言で言っても、それを定義する規定というものは曖昧で、
カッチリと定まってはいいない。

ピンからキリまで。ルールはないのだから、小説と言ってしまえば
全てが小説になる。

許容量が大きいほうが優れているというわけではなく、読める「良
作」という方程式ではないんだから、あくまで読めるという意味でし

かない。

個性のキツイ作者の作品でも読める、という事。

読めないという人は、作法を守って書かれたものなら読める、的確な比喻や正確に内容を伝える文章なら読める、という意味で、読めないこと、許容範囲が狭いことはマイナスではない。

ただ、技術の拙い作者でも、時に素晴らしい作品を生み出すもので、そういうのを取りこぼすのは勿体無いかも知れない、という程度だ。魅力的な文章が、Ⅱで作法を知っているという事ではないし、魅力的な文章を書けることが、Ⅱで構成力や創造力ではなく、ストーリーの面白さと文章の美しさは比例しない。

よく聞く、ランキングに上がるのが不思議という小説にしても、許容量の大きい人は普通にその文章が読めるし、足りない部分は補足して読んで、内容の中の突出して魅力的な何かのファクターを気に入って評価しているんだろう。

ただ、伝達力という部分で、補足がなければ読めない作品は、本来の、作者が描いているストーリーの面白さを100%で伝えてはいない事になるから、読者任せになってしまう。

いちいち補足して読むにも、個人で限界があり、限界突破した人から順に、補足して想像するのが追いつかなくなり、違和感を感じるようになる。

許容量には個人差があり、補足しながら読める器用な読者ばかりではなく、素直に作者の創造世界を再構築しようという正統派の読者は、どれだけストーリーが面白かろうが文章で伝えてくれないことには臍噛みする、ということだ。

補足しながら読むというのは、ある意味、その作品を自分流に味付けしなおして、好き勝手に読んでいるという事だからだ。真面目な人ほど、作者に敬意を払って、正統派の読み方をするんじゃないかな。

揺らぎ、隙が大きい作品は二次作品が多く出る。

自分で味付け出来る部分が多いほうが人気が出るのは、二次の人気作でよく解かつてるところだ。

漫画賞を受賞し、絶賛された作品ほど、二次は出ない。味付けする余地がないんだ。

絶賛作品に感動する、同時に、二次を多く出す一步及ばない作品だつて喜んで読む。大好きだ。

突出したファクターは、自分の中では絶賛作品に値する。

これも、スタンスの違いか。

いや、好みの問題、としか言いようがないか。人間、作者も読者も個人個人全部違う、と。（苦笑）

んでは、今週紹介する作品。

『死霊日和』

なんとゆーか・・・雰囲気のある作品で、人物がどれがどれだか解からなくなつて混乱したりもするんだけど、そういう拙さがあつてもスルスルと読めてしまった。

ストーリーが、文章をカバーして、ぐいぐいと引っ張っていく。

補足は得意だ、という読者さんは読んでみてほしい。

他の完結作品もなかなかの出来。

現代舞台のバイオレンス・ホラー風味。ミステリー？ 死霊を狩る少女少女たちの話。

行開けしない作風の方なんで、開いた途端に閉じなくなるだろうが、閉じたら負けだ。（笑）

第十一回 スコップ

活動報告で昨日、ブチ切れて愚痴ったところ、心配してくれた方がメッセくれましたー。他、活報の方にも力キコ頂きましたー・・・。

もうしわけないです、お騒がせしました。

いや、もう、言い訳なんです、ホント言い訳で見苦しいんですが。執筆中小説が50作品超えて欄外表示が3ページNEXTを指し示し、投稿済みが70作の4ページにと膨れ上がれば、整理整頓したくなるのも人情つてもんでしょうがー！（泣）

一年で2メガバイト書いた人間ですぜ、「フォルダをくれっっ！！」とか言いたくなっただよ。

せめて、好きなようにソート出来る機能をー！ 運営サマー！とかが嵩じて最終的に、全部消してやらあ、こんちくしょー！！ になっただけです。

お騒がせしました。 m (_ _ _) m

んでは、都合の悪い話題はここでポイしまして。（汗）

前回紹介の作品、行間を空けてないんだが、みなさんはどう思うだろう？

実際、行間を空けるってのは読みやすくするためのものだが、これを逆に、全部詰め詰めにしてみると、面白い事が起きる。

詰め詰めになると、とたんに、意味が通じなくなったりして読めなくなる作品が続出するんだ。（笑）

つまり、詰め詰めで書ける作者の文章技術は非常に高い、ということ。

一般書籍つてのは、エッセイや専門書を見ても、行間が『これでもか』と開いているものなど、ほぼ見ないね。

ラノベの特徴。

一行開け、という『記号』が区切りの役割をしているわけだし、わたしも便利に使っている。（笑）

けれど、小説というのはいかに記号を排して文章で説明するかというジャンルなわけだし、便利だからと言ってこれに頼りすぎるのは宜しくない。

それこそ、一般小説に慣れている読者は、一行開けを記号として受け止めずに、その前後が文章として繋がらないことを看破する。坂田さんの作品紹介した時に書いたけど、読み方の工夫など簡単だ。ラノベ読む時はそれに合わせてるだけで、もちろん、そのルールを意図的に無視して一般小説を読むように読む、なんてのも簡単だ。つまり、何が言いたいかと言えば、賞に応募したりする時には非常に不利となる、と言いたい。

本来は、行間をまったく開けずに書いていき、書き終えてから適度に区切っていくのが本道だと思う。

少なくとも、わたしが小説を書き始めた頃はそれがセオリーだった。今はどうか知らないが。

わたしも自身の作品では行間を便利な一拍記号として使っていたりするよ、便利だもん。けれど、無しでも書けるというのは、当たり前前の話だわな、という話。

てなわけで今回の作品紹介、いってみよー。

今週紹介の作品は、珍しくページ掘り進めることなく見つけられた

作。

『宮崎豆雄』

ごはんライスさんの作品。豆雄つてのが引つかかるんだが、まあ気のせいとして。

明るく軽いシニール短編。なんだよー、この作家さん、面白い話書けるんじゃない、とか思った作品。

思うに、普段はなんかテーマが突っ走ってるせいだろーね、と。

シニールで笑えるショート・ストーリー。わたしに言わせりゃ、これこそコメディ。

『卒業論文、あるいは東洋思想における一分野を成す老荘思想の入門的短編』

谷村真哉さんの作品。見つけた時には評価無しだったんだが、今はどうだろう？

うん、埋もれてしまったらしいな。ツバ付けたのはわたしだけだ。初めに見た時は、自分の瞳が輝いたのを自分で知覚したくらいだった。こういうのが見つかるから、スコップは止められない。（笑）内容は、一度読んだくらいじゃ理解出来ません。

2〜3度読んで、「ああなるほど」と。そういう話。

第十二回、もとい番外編

今回はエッセイだけなんだ。ごめん。

日間ランキングで、ほんの5ページ文字数10000以下、ストーリーなら触り程度の作品でのし上がってくる作品。これこそが、「キャッチコピー」の力だと思う。

あらずじと、タイトル、そして、さわりの文章の秀逸さで飛び出してきた作品だろう。

この先どうなるのか、勝手に期待を抱いてしまうマジック。

けど、これ、実は曲者。

小説は総合力なので、キャッチーな文章を書けたらスタートダッシュを決められるという利点はあるものの、その後に期待されるのは「想像力」と「構成力」だからだ。

想像力というのは、いわゆる「ストーリーテラー」の能力で、物語を作る力のこと。引き込まれる物語作り、これは完全に才能の分野。もちろん、キャッチコピーが作れるというのも才能だけど、これにストーリーテラーが備わっていない作品は、スタートで後続を引き離してもすぐに追いつかれる。

追いつかれるというより、メッキが剥がれる。失速していき、期待外れということポイントが下がっていく。

最初に10点貰って、減点方式で減らされていく評価傾向にある。

このテの作者さんは、ポイントが自分ラインの最低点を切ったら、もう捨てたほうがいいんだよね。

ランキングを狙う、あるいは作家を目指すなら、内容がダメな作品など書き続けても意味がない。

急激な方向転換ってというのは、作品の質を下げてしまっし、舵きりが難しいけど、そのまま続けるよりはいい。減点方式ってのは、最

初に出揃ってるんだ、後からストーリーの良さを解かってもらえて
というのはい、ない。それはマイナー作品の方程式。

本当なら、それこそ賞に応募が一番向いている作者なんだから、応募したほうがいい。

数撃ちや当たる、でストーリーがキャッチーに追いついたものを書いたら、編集部目に留まる。

このタイプがなろうで書き続けるのなら、中編小説のシリーズ物を書くつもりで、一章ごとに話をかつちりと区切って出していないと、一番マズいサイクルに陥る。

一章完結形式で書いていれば、「主人公の冒険はこれからだ！」で第一章完、で切れるわけだから。人気は下降線を辿り始めても、軌道修正にせよ打ち切りにせよ、処置がしやすい。

つまり、エタ作品やら尻切れトンボの駄作が作品一覧に残されてしまふ、という事態は避けなきゃいけない。……言ってる心痛いけども。

こんなのは一番マズイ。読者が「他の作品も、」と作品一覧を覗いた時にはそれなりのクオリティを持った作品だけを置いておかないとだめだから。

この場合のクオリティは、文章力やキャッチコピーじゃない、完全に、内容になる。

その読者は、作者の文章がどの程度かを知ってて見に来るんだから、他の作品の内容を知りに来る。文章力、構成力など、他の部分は織り込み済みで見に来るってことだ。

まあ、余力があるなら、酷い文章のものから優先的に改稿してった方がいいのは当たり前と。

では、わたしを含めて、キャッチコピーの才能には恵まれなかったという作者は？

これは、どんどん書き溜めるのが一番。

点数が低かろうが、PV少なかろうが、関係がない。まったくのゼロでないなら望みはある。

「ロコミ」だ。

スタートダッシュは無理だから、じーわじーわと追い上げていけばいい。

大長編一本きりを書き続けるというのは、タイプ別戦略としてはいいだけない。出来れば、気軽に読んでもらえる短編をいくつか、中編をいくつか、そんで長編を置いて、数で勝負。

この場合、キモになるのはとにかく「内容」で、ストーリーで魅せるしか浮上する手はない。

数というより、取っ掛かりを多くして、どの作品を見てもクオリティが高い、と唸らせるのだ。

出すべきストーリーは、今の流行りを逆行して、「重厚」というか、ライトノベルではないものがいい。

軽く読める作品など、キャッチ能力のある作者に勝てるわけがないんだから、初めから無駄な勝負は仕掛けないのがいい。

読んだあと、心に残る作品を書け。人に影響を与える作品を書ければ上出来。

じーわじーわと「ファン」を掴みに行け。ライバル視するべきは、ランキング作ではなく、同じジャンルのプロの有名作品だ。ファンを作るのは、ランキングに乗る以上にハードルが高い。内容の妥協は許されない。

でも、それしか、浮上する方法はない。

なろう発じゃない作品が多いけど、俺TUEEのお勧め小説が見
つかるんじゃないかと。

（一口でTUEEと言っても、このWikiでのTUEEは、な
ろのTUEEとは、ちと意味が違うらしい）

『俺TUEEE小説まとめWiki』

<http://wikiwiki.jp/webtueee/>

作品紹介に付いてるレビュー見る限り、読んでみたいと思わせる作
品がかなりある。

第十二回、もとい番外編（後書き）

宣伝。

こちらはわたしも書いてる、企画競作スレのWiki
今までに提出されてきた作品のリンクがあります。

<http://www.w38.atwiki.jp/kyouusak>
u/

第十三回 スコップ

自身は、いっちょチャレンジしてみつか、とテンプレ小説なるものを書いてみてたりするんだが。

元々、好きなように書き、好きそうなものを読む、というスタンスなもんで、何をもってテンプレと呼び習わしているのかさえ、実は知らなかったというオチが・・・。

今までは何となくテンプレと括っていたんだが、実際に書きだしてみると、その定義がイマイチよく解からないから、結果として書けないという状態。結局、いつも通りのフツウの作品書いてる気が。

「これは、どうナナメに読んでみたって、テンプレ小説とは、言わんわな。」

恐るべし！ テンプレ！

いきなり異世界に来た、という設定しか踏襲していないよ！

アレだ、行間は思い切りよくガツと開けなきゃいけないんだろ？

無理。

ガツ、と開けられたあの空間を自分の作品にもと思って、わざわざ挿入してみたけど、耐えきれなくなつて全部詰めてしまったがな。

そう、「〜だ。」とか「〜で、」の「。」「、」「と」同じくらい、空行にも意味が持たせてあったりするから、おいそれとは変えられなかったよ。

音楽でいう、シャープ、フラット、みたいな譜面記号と同じ意味だから、変えられん。

読み手がそうは思っていないとしても、わたしにはそれがコダワリなもので。（笑

駄目だ！ やっぱりラノベ書けない！ ラノベのルールをわたしは

守れない人なんだ！

まあいいけど。

しかしなんだね。書いて、いや書こうとしてみても解かったんだが、テンプレつつつても難しいもんだ。

読み手に不安を与えない、という一事がとにかく難しい。

ちよつと凝ったストーリーにしようと思ったら、どうしても伏線で匂わすからなあ。匂わす技法が、不安を煽るつてのが一番オーソドックスで楽な方法だもんだから、これを封じられるのは辛い。

違和感とか、安心の中にふとした不安感を一振りするつてのがポピュラーだと思うが、ラノベはそれを極力抑えないといけないわけだからさ。

物語が平坦にもなるわなあ。山場でページ切ったら、それが裏を返せば不安となつて、ストレスになるもんな。それが毎回続けば、累積でかなりのダメージになる。

ファンタジーと、あと、「恋愛」が勢いあるけど、これもそういう事情があるんだろう。

恋愛の駆け引きでの山場つて感じでページ切りしても、不快な不安つてのにはならんもんな。うん、だから寝取られとかは受けない、とかか？

なろう読者はめんどくせー。(笑)

あ。普通に、一話に一度盛り上がりを入れて、ページ最後までに引きは入れるもんだと思うが、毎回毎回恋愛関連で引きだの山だの作つてたら、うざい男や女にならんのだろうか？

ちと、疑問に思ってみたり。今後の研究課題。

んでは、今回のお勧め作品。

『戯れは奇想の跡』

読み始めは、普通に推理物とか刑事物かと思った。けれど、話が続いていくうちに、学園探偵物、それも少々コメディが入ってる感じ、と変化する。

文章はごくたま〜に「ん？」と思う一文がある程度で、ぜんぜんまったく問題なく読めた。

ストーリーも面白い。鬼ってなに？ 目的なに？ と興味を引かれる。

ただ、まだ三話しかない上に、最終が11月なんで・・・更新が少々不安だ・・・。

サルベージ作品ってことで、何処まで書かれてあるのかな〜、と。

『優希が野球をやめた理由』

完結済みの作品。二話目でちょっとしたサプライズ、というか「おお、」という驚き。

あえてジャンルとかは言わないでおく。野球部が物語の軸に入ってる話ということで、珍しいなーと思って。

文章もしっかりしてて、詰められたレイアウトで、だけどプロローグがものすごく短いものだもんで、きつと一話のプロローグでブラウザバックされてるんだらうなー、と。

しかしだな、逆に言う。

この方式は、かつてのWebサイトではよく見るパターンだったんだ。よって、アタリの可能性が高い、と睨んで読み進めたわたしの勝利！（笑

すっきりと纏められた中編小説。ストーリーもなかなか。満足。

ここらでまた番外。

魔法世界での奴隷制の有り様ってのを考えてみた。

まず、奴隷は商品であって、これが一生もので家に置いておくものという考えは、おかしいよな。

高価な商品というなら、たぶん、車みたいなもんだ。

せいぜい2〜3年で転売して、歳取ったり、障害抱えたり、病気になるったりで、価値が落ちてって。

最終的には怪しい魔道実験のモルモットとか、剣闘士のエキシビション用とか。値段も二束三文にまで落ちていく。

性奴隷とかでも、最終は安い売春窟辺りへ売られるなり、見目がいなら子供を産ませる専門奴隷にされたり、というところだろう。商品だもの。

人間は車と違って愛着がどーの、とか言い出しそうだが、人間は慣れる。社会的にそれが普通という価値観になれば、普通に、愛着を持って長く置いておくというご主人の方が変人扱いされる。

アメリカの南北戦争にしても、北部は奴隷があまり必要のない土地だったから、「奴隷かわいそう、」なんて考えが生まれただけで、南部は奴隷労働力が必需品だったからそんな余裕は産まれなかった。そも、奴隷開放は口実に過ぎなかった。南部の豪農が邪魔だっただけだし。人間はそんなに偉いもんじゃない。

片や、炭鉱なり煙突夫なりの、危険職に関しては、冒険者という非正規労働者に回るんだろう。

煙突掃除は子供のように体の小さい者にしか出来なかった上に、煤で肺をやられて短命だったという。

鉱山も、落盤などの事故が多く、これも粉塵で肺をやられる危険職だ。

まあ、魔法があるという事を考えれば、煙突掃除はデイズニーの「

魔法使いの弟子」方式で、ブラシに魔法をかけて自動でやらせてた換算が高い。

けど、鉦山は自動でやらせるにや高度な技術になるから、人の手だろう。

現実でも、危険手当というか、人が嫌がる仕事は報酬が高いものだが。為り手が少ないから。

危険に応じて報酬が上がるもんだが、ここにモンスターが登場するなら、相場が変わってくるよな。

モンスター退治のほうが華がある上に危険度も高いのだから、炭鉦の危険度など「たかが知れてる」という価値観になるだろう。そうしたら、普通の街の一般職に比べれば段違いの危険さにも関わらず、報酬としては同程度、という嫌な仕事になるだろう。

けど、モンスター退治の求人と鉦山の求人と、働き口としては1：10くらいには違ってくるわな。

したら、下部の冒険者なんかは嫌でも鉦山のほうへ行くしかない、ということ、人材確保は出来る。

わざわざ奴隷を買う必要はない。保障も先行投資もいらん、使い捨ての冒険者で十分だ。

モンスターと戦うわけじゃないんだから、とかの屁理屈で足元を見られて安く使われる、ということ。

奴隷にしても、冒険者にしても、最底辺の貧民の受け皿という性質に違いはない。

戦争捕虜は奴隷にしたし、これはタダだ。戦利品の一端ともなるから、国は推奨する理由になる。

奴隷制度を廃止するメリットとデメリット。

敵国の人間を捕まえたなら自由に売り買いしてよろしい、というのは、自腹で報酬出すより安く兵士の士気を上げるネタになる。

反面、平時には犯罪者のシノギの、いい稼ぎ口になってしまう。誘拐して売りさばけば、元はタダだ。

誘拐から放火とか強殺とか、凶悪犯罪の呼び水になって、国民の不満につながったり。

奴隷のメリットが、そのまま冒険者でも代替え可能となれば、奴隷制度は意味がなくなり、先行投資のリスクとあいまって、適当な理由をつけて潰されるだろう。

不要だということだから。

それこそ、宗教が人気取りに利用して、「奴隷いくない！」とか言つて。止めよう運動とかするんだ。

奴隷と冒険者は連動するね。

まず、人の嫌がる仕事が先にありけり、で。

これを片付けさせるための職種として、奴隷が相応しいか冒険者が相応しいか。どっちが安く上がるかという問題で考えるといいわけだ。

奴隷は一切の権利がないから、問題は冒険者。いや、冒険者ギルドか。

ここがどれだけの権限を持つて、冒険者が社会でどの程度の数居るか、それと、国には兵士が居ると思うんで、こことの兼ね合いだわな。

ぶっちゃけ、モンスター退治は兵隊さんがやるんじゃない？ということ。

それをしない理由として、兵士より冒険者使う、使い捨て案件ないと理屈が通らない、と。

とにかくモンスターがうじゃうじゃしてる、だから兵士ではキリがない、という理屈。雑多な、兵士が出るまでもないけど一般人だと嫌がる、という隙間産業だわな。

大群でいるなら文句なしで兵隊が出る。けど、数匹単位で、あちこちで出る、なら冒険者に云えとなる。

スズメバチの巣をなんとかしてください！とか。

モンハンだと、ここらへんは職業としてきっちり線引きがされてい

る、という説明があった。

モンスター退治は、ハンターの専門だ。とかのセリフ。

そうすると、危険職や一時限りの雑多な用事は冒険者。

農奴とか、現在の機械化に置き換わる部分は奴隷、という感じで別れるんじゃないかな。

なんてことをつらつらと考えていた。

第14回 スコップ

本スレで紹介されていたコメディというか、パロディ作品。『零夜の奇妙な転生』

作品自体も面白いんだが、なにより、元ネタになっている作品への好感というか、テンプレをバカにする為に書いている以上のものを感じられて、楽しめた。

シロウト作品なんかを読んでいると、ついつい頭の中で「んなワケあるか、」とかつて苦笑しながらツツコミを入れたりするけど、それを真面目にコメディとかパロディとして作品にした感じだ。

こんな風に愛されている作品というのは、元ネタ作品自体も、単にツツコミどころの多い作品という以上の価値があったりする。

で、それは大抵が、作者の人格的なものとか、作品に向き合う姿勢だったりするよね。

このパロディ作自体も、作者がものすごく楽しんで書いているのが解かるし。

で、思い出したんだ。

昔は同人世界でも、二次というのはものすごくバカにされたもんだった。「ヤマなし、オチなし、イミなし」と言っただけ。書く意味もないクズ、という評価だったんだ。他人のフンドシで勝負以前の紙屑、と。

二次同人が好きと言うことさえ憚られて、自分で、どうしてこんな作品以前の物が好きなのか、と疑問に思って考えた結論が、やっぱり、時代が変われど永久不変のものが根底にあるからだなと思っつまり、「好きという気持ち」だよ。

同人誌、とくに二次創作って、ほんとうに「好き」の塊なんだよね。まあ、だからこそ、その逆のアンチは吐き気がするほど嫌いというか、嫌悪感があるんだが。

作者の内面が如実に表れている。自身の内面の汚さや幼稚さがね。恥を曝すだけなのだから、2chあたりで書き散らしておけばいいものを、と思ったりする。

同人を読むと、「ああ、この人はこの作品が好きで好きでしょーがないんだろぅなあ、」と思えて、それがとても心地いいものだった。りして。

技術の拙さだの、設定が崩壊しているだの、そんなの無視してしまえるくらい、読んでて気持ちいい。

技術が付いてくるようになると、今度は計算が入ってくるじゃないすか。

そしたら、純粹に「好きっ！」ていう作者の気持ち、計算の要素ゆえに薄れてしまっただよね。抑えて書くようになるから。

ストレスの多い現代社会だから、趣味で読む作品くらいは、つてのがあるような気がするね。ただ、気分が落ち込む作品は嫌っていうんじゃないくて、そのストレスに見合ったレスポンスが期待出来ないのが嫌なんじゃないかと、最近は思うようになった。

気分悪くさせといて、なんの感動もくれない、考える意味もない作品とかは、やっぱり嫌なもんかなって。

それなら、技術はカラキシでも「好きっ」という気持ちが溢れてる作品の方が、選ばれていくのは当たり前だよな。

心に負担のかかる作品を読む理由なんて、その作者が発信するメッセージで自分の価値観を変えたい、意識の更新をしたいって部分しかないわけだし。

嫌々後味を受けて、「で？ 何が言いたかったわけ？」なんて読後感想では、時間の無駄をさせられたとは思えない。

「そんな当たり前の事を、言いたかっただけなの？」という程度のテーマしかないのに、鬱展開で気分を悪くしないでくれ。・・・そういう事なんだろう。

S M小説を読み漁っていた時に、S M版「ヤマなしオチなしイミなし」という作品を読んで、そういう嫌々な感情を抱いたことが数回あったのを思い出した。

心の琴線に触れるものは何も残さなくせに、残虐な描写で嫌悪感だけはトラウマクラスに植え付けてくれて。（苦笑

根っからの悪人など居はしない、が、無邪気な残虐性を持つ人間は存在するのだ、と彼らから教わった。

解かってやる悪人ではなく、解からないまま楽しんでいる残虐な人、だ。残虐を残虐と知らない無智。

ああ、これが本物のサディストって奴なのかなー、とか思ったものだった。

いつか掘り下げて書いてみたいテーマの一つだけど。

で、話を元に戻すと。

商業作にはない要素である、滲み出る「好き」の感情が心地いいから、同人を買い漁っていたなあ、と思い出したら、なるうランキングで時々見かける「なんでこの作品が？」と首を捻っていた作品の評価も、解かる気がしたんだ。

ランキングする作品って、作者が楽しんで書いてるんだろう。

で、例えば、わたしのようないダークサイド（笑）の作者に触発されて、展開を捻ろうとか、皮肉を入れようとか、計算を入れようとすると、「好き」「楽しい」が薄れて、ブーイングを食らう、という事じゃないかな。（笑

自分が書くときって、どうかなあ？と考えると、楽しんで書いてる時より、怒りで書いてる時のほうが多い気がするな。悔しい、悔しい、で涙こぼしながら書いてたり。（笑

あ、誤解すんな、読者が少ないとかの「悔しい」じゃなくて、世の中の不条理とかを思っ、悔しくてたまらない感情のままで書いてる。

その場面、その場面で、その時々登場人物の心境で、悔しいとか、ちくしょう、とかなくて書く。

だから、基本的に、楽しんで書いてる人とは逆だ。

よく聞く超展開とか、読者の望まない方向への舵きりって、こんな風にして起きると思う。

自分の作品を愛して、楽しく書いてたんだよ、ピクニックのように、途中でシャウトしてるシンガーの歌を聴いてしまって、自分もシャウトしたくなったんだ。

今まで「ランラン、ルンルン」で進んでいた物語が「俺の叫びを聞けー！！」に変わったら、そりゃ、読者は面食らうわな。（笑）そして、大事なことだが、シャウトしようと思ったら、重厚なバックボーン、知識やら哲学がないとな。バックボーンがないのに書いたって、「で？ そんな当たり前の事をなに偉そうに叫んでんの？」となって、読者が白けるだけだ。だから、若いうちは世界を広げる努力を、とか言われるんだ。

物語の世界観てのは、作者の持つ哲学なんだから。ガッチリと、自分なりに今居るこの世界を解明出来ていないことには、シャウトは出来ないよなあ。

その世界観とか、この世の観方が正しいか間違ってるかは関係なくてだ。

一本、きつちりと筋を通してモノを見る、そのための物差しはあるか？てことだ。

でも、なろうでは書いてる人もまだまだ若輩ばかりだろ？ だから、中途半端なシャウトよりはランラン、ルンルンの方が、よほど人を惹きつけるし、面白いんだと思う。

純粋に楽しんで書いてる人の、その輝きに勝るほどのシャウトが出来る人は、まあ、少ないよな、と。

若輩ってことはだ、商業作だの映画だのドラマだの、上質のシャウ

トを聞く機会がものすごく多くて、それだけ更新の余地を残してる、変化の途中だから、羨ましいことでもある。うん。

あいつ、今週のお勧めは〜。

『殉教ロザリオ』 彪峰イツカさん

見つけた時はポイント0だったのだけど、その後、完結編でしばらく表記されてた甲斐あってか、数Pついてて、ニンマリ。（笑 やっぱ、掘り起こすってのが大変な場所でありますな、なろう。

現代が舞台のサスペンス仕立ての作品。7話で終わるからすぐ読めると思ったら、一話がめちゃくちゃ長かった。orz

自分が一話3000文字以上になるとぶった切りたい症候群なもので、この長さは尊敬だわ。

逆に、これだけのストーリーなのに評価ないのもそのせいだな、と。

（苦笑

他の作品もいい。なにより、わたしと違って、書き散らすことなくきちんと一作一作仕上げるタイプの作家さんだから、安心だろバーロ〜。

・・・昨今の読者はワガママだな、まったく。（ウソ、ごめん）

累計でも日間でも、大多数はせいぜい3000で一話だよ、なろうの定型だ。（笑

長くてツライ人には、短編の『七日間の幽霊』をお奨め。ボロボロ泣いた。泣いたよー。泣いた後にロザリオにチャレンジしてくれっ！

『忠臣蔵外伝 前編・中村仲蔵の巻』 阿僧祇さん

芝居の、忠臣蔵を演じる役者の物語。わたしもやった事あるが、資料を纏めて形にしたというもので、知ってる人は知ってる、よく知られた話ではあるものの、綺麗に纏められていて読みやすい。見るべきは物語よりむしろ文章。

無駄がないーっ、さらっ、と書かれていますーっ。

さすがはセミプロ。いや、時々創作物の台本とか書かれていますらしい、という事でやっぱ、お手本になります、あざーっす。

この方も沢山書かれていますんで、他のもお勧めしとくっ。

第十五回 スコップ

ふと気付いたら、10時前ですよ。

メリークリスマス！ イブにはカニ食って茶わん蒸しすすってたぜー、イエー！

今日はチキンが出たけど、和食にコダワリのある我が家では『鶏の手羽元さっぱり風煮込み』だったぜ、イエー！ メリークリスマスー！

話はころつと変わってだね、わたしは一応、マイページの自己紹介欄に「作家志望」みたいな寝言を書き込んでいるんだが、実はそんなに本気で思ってるわけじゃないんだ。

『本気で小説家になろうとしている女の話』朋次郎氏作、を読んで、ちと現状、複雑な気分に限っているわけですよ。

わたしの「作家になりたい」は、「なれたらいいな」であって、もつとアケスな言葉で言うなら「三億円当たんねえかな」なワケなんですだよ。

いや、ホラ、本気で作家を目指して努力しているとは言い難い状況であって、これで作家志望とか言ってしまうのは、本気で作家を目指して努力している他の作家志望のなろう利用者の方に失礼だよな、とか思ってしまったね。

本気で作家を目指していたなら、投稿経験が一度きり、なんてフザケた経歴してないって。

目指してない、と言いきれるのかというと、「棚からボタモチ」は狙ってないわけじゃないんで、これもやっぱり言いきれない。宝くじ買うような、軽い気持ちで夢見てるだけなんで、本気の人には申し訳ないかな、とかちよつと思ったりしている。

物書きって、他人を見てたらやってけない商売だと思うんだ。

人気とか、流行りとか、意見とか。まるきり無視するのはバカだけど、囚われてしまうと何も書けない。

作家にならないと生活に困るという事もないから、ほんと、宝くじを買うように作品を発表しているに過ぎなくて、だから大したモノが書けないのかな、と思ったりもする。

本気で、全身全霊懸けて書いてるわけじゃない、つての、自分で解かるじゃないですか？

軽く書いてるモノが人の心に響くわけではない、だから、懸命に書くと思うものの、そういうものは辛いんだよね。エルフみたいに。もつと情熱傾けて書いていたはずなのに、て。

昔は、それこそ道を歩く幽鬼のごとく、一日中、小説の構想を練ってフラフラしていたものだったのに。

なんか、妙に焦るんだよ。自分の書くものは、この程度じゃないって自分が一番よく解かってる。

今年、あと数日で終わるというのに、今年の自分の最高といえる作品はまだ書けてない。
焦る。

ネトゲにハマって、数年間、まったく創作活動から離れてしまったから、ずっと長い間スランプで、絵描きのほうは未だに勘が戻らない。小説のほうは、お蔭さんでようやくエンジンがかかってきた感じだ。

書き続けないといけない。

なにことも、続けないと錆びてしまうものだよ。

でもね、好きこそものの上手なれ、とはいえ、才能と嗜好は必ずしも一致しない、というのは、わたしの持論だね。世の中は残酷なものだと冷酷に見ている。自分含めで。

では、今週の発掘品。

『Far East』 桃川千鶴氏

吸血鬼モノ。近未来SF、とっていいのかな、むしろ別次元の現代舞台というべきか。

吸血鬼というのも、今のところは設定の一つでこの先どう転ぶかは解からないような。主人公無敵とまではいかないものの、かなりTUEE系の匂いもする。

けど、文章が秀逸。それで、ストーリーに心惹かれる。まだ序盤なので先がどう展開するか、期待したいと思う。

『フライ・フィッシャーズ』 カカオ氏

民宿を舞台にした群像劇。人の繋がりがなかなか面白い。

なにより、作品の端々に沢山読んでる人に特有の「ちよつと見ないよくある定型文」を見つけるので、安心して読めた。ラノベ以外の小説とかもたくさん読んでいる人と思う。

内容のほうは、まだ読み始めたばかりでなんとも言えない・・・が、わたしは気に入った。

お勧めしておこうと思う。

どうもわたしは、行間が空いてないと安心するタイプのようだね。
(苦笑)

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能^{たんのう}してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n1110x/>

日曜日はスコップ日和（未評価作品をスコップで掘る）

2011年12月25日23時05分発行